

日本特別ニーズ教育学会

2025 年度中間集会

日時：2025 年 6 月 28 日（土）9:30～16:00（受付 9:00）

会場：北海道教育大学釧路校 教室棟 4 階 403 講義室

参加費：会員・非会員 1,000 円／学部学生・高校生以下無料

＊申し込みは PEATIX にて右の QR コードからお申し込みください



学会理事企画「課題研究」（9:45～11:45）

「特別ニーズ教育学史の研究」

報告者 小野川文子（北海道教育大学釧路校） 能田昂（秋田大学）

しめきり

6 / 23 (月)

ランチセッション（12:00～13:30）

「若手チャレンジ研究会」

大学学部学生・特別専攻科学生・教職大学院学生・大学院修士課程を対象に、卒業論文・修了論文・課題研究・修士論文等の研究デザインの発表会

準備委員会主催シンポジウム（13:45～15:45）

テーマ「当事者の『声』からみえてくる特別支援教育・特別ニーズ教育」

指定討論者 赤木和重（神戸大学） 北海道内の当事者の方にシンポジストをお願いしています。



後援：北海道教育委員会 釧路市教育委員会 北海道教育大学釧路校

お問い合わせは 2025 年度中間集会準備委員会

北海道教育大学釧路校 発達教育実践分野 特別支援教育研究室

小野川文子 e-mail：onogawa.fumiko@k.hokkyodai.ac.jp

プログラム

9:00～	受付開始
9:30～9:45	オープニングセッション
9:45～11:45	学会理事企画「課題研究」 「特別ニーズ教育学史の研究」
12:00～13:30	ランチセッション「若手チャレンジ研究会」
13:45～15:45	準備委員会企画シンポジウム 「当事者の『声』から見えてくる特別支援教育・特別ニーズ教育」
15:45～16:00	クロージングセッション

学会理事企画「課題研究」

「特別ニーズ教育学史の研究」

<9:45～11:45>

報告者

①小野川文子（北海道教育大学釧路校）

特別ニーズを有する子どもの生活教育・生活支援と特別ニーズ教育の30年—寄宿舎教育を中心に—

②能田昂（秋田大学）

阪神淡路大震災・東日本大震災・COVID-19パンデミック等と特別ニーズ教育の30年

—「子ども被災・救済の特別ニーズ教育」創成の課題—

準備委員会企画シンポジウム

「当事者の『声』から見えてくる特別支援教育・特別ニーズ教育」

<13:45～15:45>

日本が批准30周年を迎える子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）では、子どもを権利主体として捉え、意見を表明する権利の保障が求められてきた。特別支援教育・特別ニーズ教育は、子どもや当事者の「声」にどれだけ注意を払い、耳を傾けてきただろうか。「声」に耳を傾けるとは、子ども・当事者の「ニーズ」を外側から規定するのではなく、本人の主観的な世界(View)を丁寧に捉え、それを主題としていくことである。本シンポジウムでは、障害当事者に子ども時代を振り返ってもらい、教育・学校に対する思いをお聞きするとともに、自らの経験を踏まえた課題を提起していただく。さらに、現在学校に勤務する若手教員から、子どもを主体とした教育実践を模索するなかでの希望や苦悩といった「声」を発信していただく。あらゆる「声」に耳を傾け、特別支援教育・特別ニーズ教育のいまとこれからを考える。

話題提供者

①小・中学校を通常学級に在籍した自閉スペクトラム症の青年

（釧路市内の小・中・高校を経て、現在市内の大学に在学中）

②特別支援学校を卒業し一般企業に勤める青年

（釧路市内の小・中では特別支援学級に在籍、特別支援学校高等部を卒業後、現在市内の企業に勤務）

③元場面緘黙、不登校・ひきこもりを経験しピアカウンセラーに取り組む方

（札幌市内の小・中・高校、札幌近郊の大学を卒業して、現在ピアカウンセラーに取り組む）

④小学校の教員として勤務し特別支援教育に携わる若手教員

（釧路市内の大学を卒業後、市内小学校に特別支援学級担任として勤務して2年目）

指定討論者 赤木和重氏（神戸大学）

コーディネーター 戸田竜也氏（北海道教育大学釧路校）